



小特集によせて（小特集Ⅱ 境界を越える／境界を生きる：日中における移動と社会適応の生活史）

沈, 思遠

(Citation)

綜合文化, 2:191

(Issue Date)

2026-03-31

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100504208>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100504208>



小特集によせて

沈 思 遠

(SHEN Siyuan)

本特集は、「境界を越える／境界を生きる」という視座から、日中両社会における人の移動と生活史を検討するものである。都市と農村、世代、ジェンダー規範など、社会に存在する多様な境界は、個人や家族の生のあり方を方向づけ、その移動や選択の過程に影響を及ぼしてきた。本特集では、こうした境界の作用とその経験的実態を多角的に捉えることを目的とする。

本特集に収めた論文のうち5本は、9月24日の文化交渉学ワークショップ「文化としての論争」でのパネル報告をもとに加筆・修正した研究論文である。そのほか、関連テーマを扱った書評論文1本を加え、全体で6本の構成となっている。これらの論文は、日中両国における都市・農村間および世代間の多様な移動経路を描き出し、制度・文化・ジェンダー要因が「境界を生きる」人々の生活戦略や社会適応にどのように働いているのかを明らかにする。本特集を通じて、境界をまたいで生きる人々の実践と、それを取り巻く構造的課題を可視化し、日中の農村研究および移動研究に新たな視点と可能性を提示したい。

現在、日本の中国研究、とりわけ都市―農村社会学では、中国出身の留学生や若手研究者の参加が目立つようになっている。こうした研究動向の中で、本特集の前身であるパネル報告も、中国出身の若手研究者（周玉琴・張曼青・余樂・沈思遠・劉琛瑜）が共同企画し、それぞれの研究成果をまとめたものである。今回は日程が合わず対面で集まれなかったが、オンライン上で活発な議論を行うことができた。

本企画という貴重な機会を設けてくださった梶尾文武先生をはじめ、文化交渉研究プロジェクトの先生方に深く感謝申し上げる。また、梶尾先生ならびに社会学専修の田村豪さんのご支援とご尽力のおかげで、ワークショップの開催および論文化を無事に進めることができた。ここに改めて心より御礼申し上げたい。最後に、当日の登壇者および参加者の皆さまにも感謝の意を表する。